

## 6月1日現在の就職活動状況

2014年度  
Vol.7

選考解禁から2カ月が過ぎ、就職採用戦線は事実上の後半戦へと移りつつある。6月1日現在の学生モニターの就職活動状況について調査を行ったところ、内定率は先月に続き前年同時期を上回っていることが分かった。

### 1. 6月1日現在の内定状況

- 内定率は67.1%。前年同時期(62.3%)より4.8ポイント上昇
- 内定者のうち、就職先を決定し活動を終了したのは74.2%。前年(74.0%)とほぼ同率

### 2. 6月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

- 全体的な活動量は、前年と同水準

### 3. 就職活動継続者の状況

- ”持ち駒”を増やす必要性「強く感じる」28.4%、「やや感じる」26.8%
- ”持ち駒”を増やすために見直すのは、「志望業界」「志望職種」「企業規模」の順

### 4. 未内定者の志望業界と企業規模

- 「銀行」志望は急減。「情報処理・ソフトウェア」は徐々に順位上がり2位に
- 現時点で活動の中心は、「中堅中小企業」「規模こだわらない」がさらに増加

### 5. 就職決定企業を決めた理由

- 「社会貢献度が高い」が1位に。前年1位の「仕事内容が魅力的」は2位

### 6. 就職決定企業の情報取得度

- 「十分に得られた」38.2%、「まあ得られた」50.1%。「十分に得られなかった」は2.2%

### 7. 就職決定企業を決めた背景

- 「早い時期の内定で、自分を高く評価してくれたと感じた」が46.1%で最多

### 8. 就職決定企業への内定承諾期間

- 内定から承諾までの平均日数は4.8日。過半数が即日承諾

### 9. 理系学生の推薦申し込み状況

- 推薦申込者は理系全体の23.1%。うち69.3%が「学内選抜なかった」

### 10. 就活川柳

- 全686作品から、佳作11首を紹介

#### 《調査概要》

- 調査対象：2014年3月卒業予定の全国の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）
- 回答数：1,287人（文系男子435人、文系女子356人、理系男子351人、理系女子145人）
- 調査方法：インターネット調査法
- 調査期間：2013年6月1日～5日
- サンプリング：日経就職ナビ2014就職活動モニター

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-5804-5567 / 株式会社ディスコ キャリアリサーチ

「日経就職ナビ 就職活動モニター調査」は、株式会社日経HRと株式会社ディスコが大学生の就職活動状況を調査することを目的として実施しています。  
日経就職ナビは日本経済新聞社が主管し、株式会社日経HRが企画・管理を担当し、株式会社ディスコが運営事務局を務めています。

### 1. 6月1日現在の内定状況

6月1日現在の学生モニターの内定率は67.1%。先月調査(5月1日現在)よりも14.1ポイント伸び、引き続き高い水準となった。しかし、リーマン・ショック前の就職プチバブルと言われた頃の水準には及んでいない。5月時点での内定率は前年を7.2ポイント上回っていたが、この6月にはその差は4.8ポイントに縮まり、勢いにややブレーキが掛かった格好だ。今年は倫理憲章改定の2年目で、様子見ムードだった前年より早く内定を出した企業が多数確認されている。内定率の上昇は、早期化の影響が強いのだとすれば、7月には前年との差はさらに縮まる可能性が高い。しかし、企業の採用意欲の高さを考えると、内定率が前年を下回ることはないと思われる。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは74.2%。モニター全体を分母としてみると(次ページ円グラフ)49.8%となる。一方で、「内定を得たが就職活動を継続」と「内定なし」を足し合わせた「就活継続者」は、46.5%。この6月で折り返し地点を迎えたとと言える。

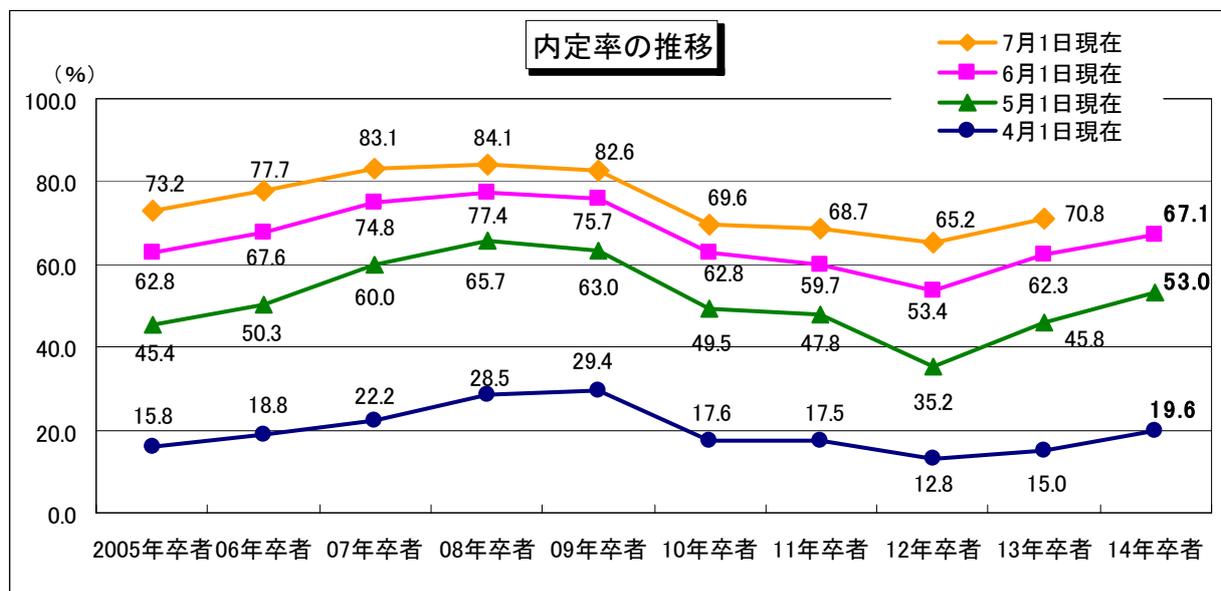
6月1日現在の内定の状況

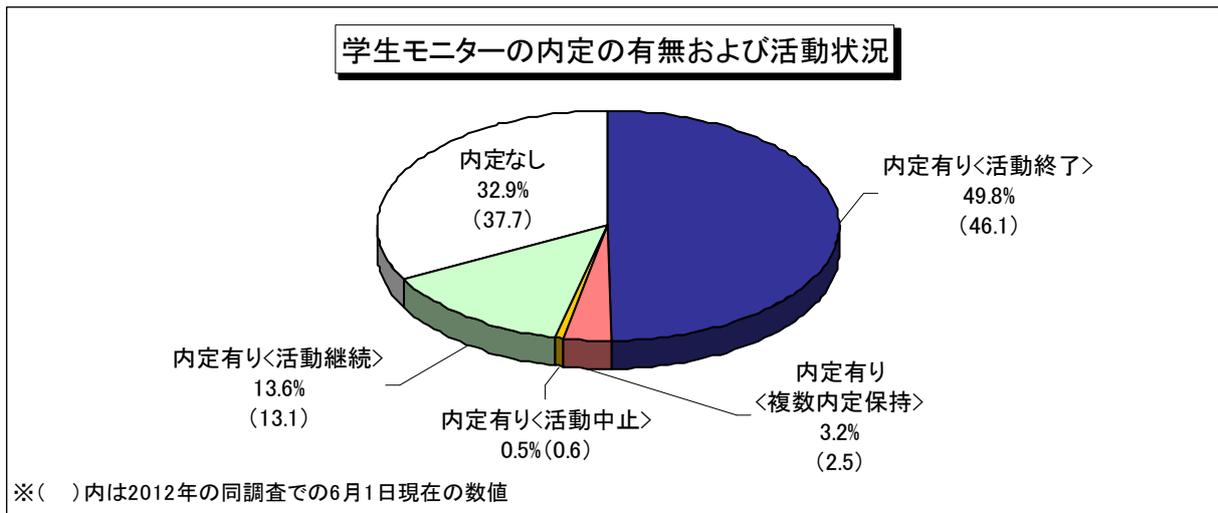
\*「内定」には、内々定を含む

(%)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		67.1 (62.3)	66.7 (63.9)	63.5 (58.9)	70.7 (64.9)	69.0 (58.5)
内定なし		32.9 (37.7)	33.3 (36.1)	36.5 (41.1)	29.3 (35.1)	31.0 (41.5)
内定社数(平均/社)		2.0 (1.9)	2.1 (2.0)	1.8 (1.8)	1.9 (1.8)	1.9 (1.7)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	74.2 (74.0)	71.4 (72.5)	67.7 (74.6)	83.9 (76.4)	73.0 (71.0)
	終了したが複数内定保持	4.7 (4.1)	5.5 (4.1)	4.0 (4.9)	3.6 (2.8)	7.0 (5.8)
	進学などの理由で活動を中止	0.8 (0.9)	0.7 (0.4)	0.0 (2.2)	1.2 (0.9)	2.0 (0.0)
	就職活動継続	20.3 (21.0)	22.4 (23.0)	28.3 (18.4)	11.3 (19.9)	18.0 (23.2)

※( )内は2012年の同調査での6月1日現在の数値





## 2. 6月1日現在の活動状況と選考試験の受験社数

6月1日現在、一人あたりのエントリー社数は平均で89.6社。先月調査と同様、前年同時期をわずかに上回る水準で推移している。セミナー参加やエントリーシート提出、選考試験受験数などについては、前年との大きな変化は見られない。前年は倫理憲章の変更で就活期間が2カ月分短くなったが、それ以前の年と変わらない活動量を維持していた。今年もそれと同等ということは、かなり高水準であると言え、前年に引き続き密度の濃い就職活動が展開されていると言える。

**6月1日現在の就職活動の状況**

	全 体	今年5月	前年全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリー (社)	89.6	84.9	85.4	96.2	108.8	65.5	81.5
今後のエントリー予定 (社)	7.7	8.9	7.8	8.2	8.4	6.6	5.9
セミナー・説明会参加 (社)	53.2	51.4	54.0	58.0	60.3	44.3	42.8
企業単独開催のもの (社)	24.6	23.4	24.7	28.8	28.3	18.6	17.7
合同開催のもの (社)	15.6	15.5	17.1	16.2	17.8	13.4	13.8
学内開催のもの (社)	13.0	12.5	12.3	13.0	14.2	12.4	11.3
オンラインセミナー視聴 (社)	6.5	6.3	-	7.2	6.7	5.6	6.1
ライブ中継 (社)	3.3	3.3	-	3.6	3.6	2.9	3.0
オンデマンド (録画) (社)	3.2	3.0	-	3.6	3.2	2.7	3.1
エントリーシート提出 (社)	23.6	21.2	22.2	25.5	25.6	19.8	22.2
選考試験の受験社数 (社)	30.1	27.3	30.3	34.8	31.8	23.8	26.8
筆記・WEB試験 (社)	15.0	13.7	14.9	17.1	16.3	11.7	13.5
面接試験 (社)	10.3	9.1	10.6	12.1	10.6	8.3	9.0
グループディスカッション (社)	4.8	4.5	4.8	5.6	4.9	3.8	4.3

※「今後のエントリー予定社数」は、就職活動継続者のみ回答

### 3. 就職活動継続者の今後の見通し

内定者も含め、6月1日現在で就職活動を継続している学生(モニター全体の46.5%)に、選考中およびこれから受験する予定の企業(持ち駒)の数を聞いたところ、平均して3.2社と先月調査(5.0社)より1.8社減っていた。前年同期(3.4社)と比べても0.2社少ない。

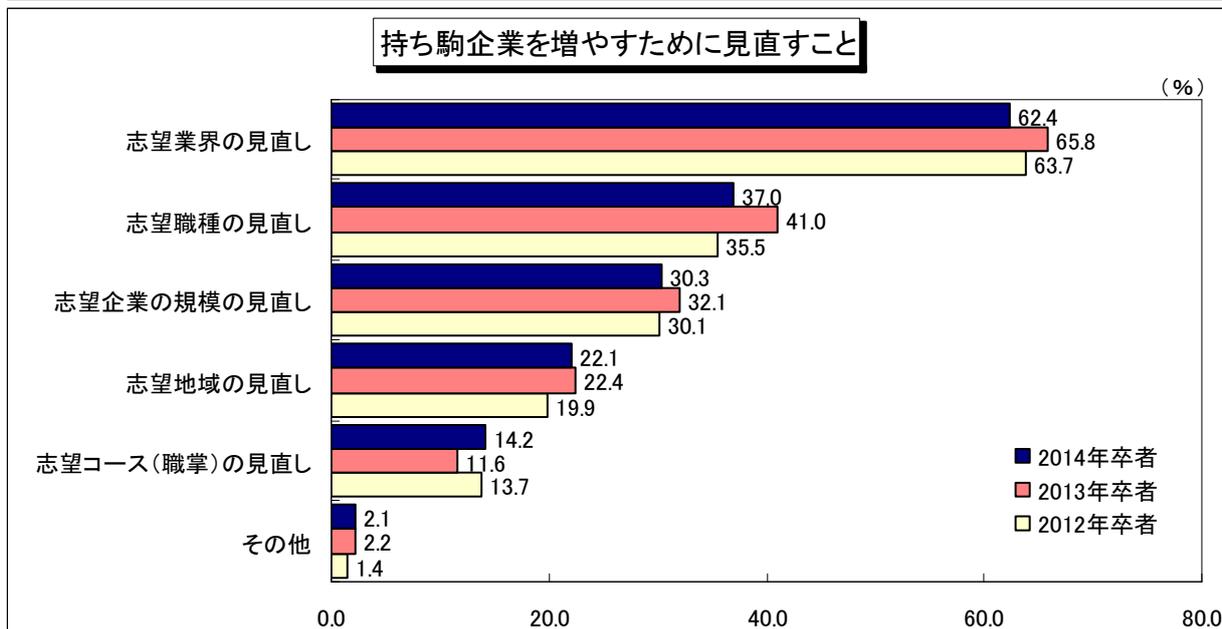
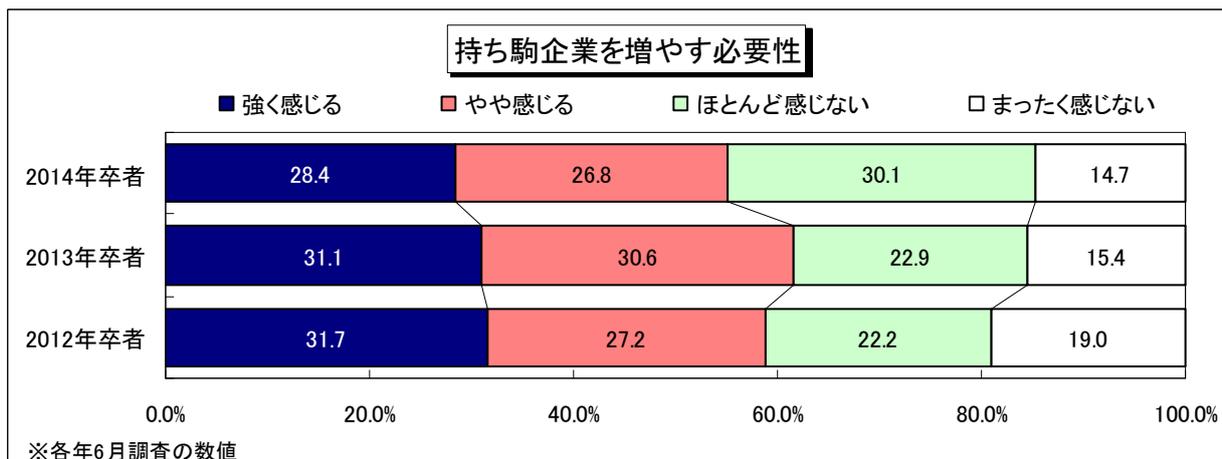
「持ち駒を増やす必要性」については、「強く感じる」28.4%、「やや感じる」26.8%で、両者をあわせて過半数(55.2%)が持ち駒を増やす必要性を感じていると回答した。

「強く感じる」「やや感じる」と回答した学生に、どのような方向で増やしたいと考えているか(持ち駒企業を増やすために見直すこと)を重ねて聞いたところ、「志望業界の見直し」が62.4%で最も多く、「志望職種の見直し」(37.0%)、「志望企業の規模の見直し」(30.3%)と続く。就職戦線が事実上の後半戦へと移る中、視野を広げ、より現実的な選択肢へと軌道修正を図ろうとする様子が見え始める。

選考進行中および今後受ける予定の企業(持ち駒)社数

	全 体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
6月1日現在	3.2	3.4	3.2	3.5	2.9	2.8
5月1日現在	5.0	5.1	5.1	5.5	4.0	4.8
4月1日現在	8.4	8.6	9.3	9.9	6.3	6.7

(社)



#### 4. 未内定者の志望業界と企業規模

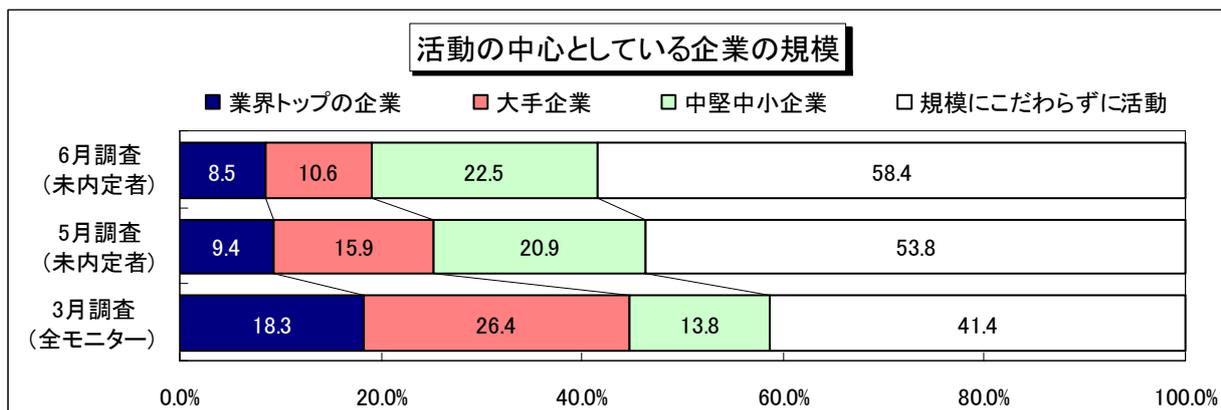
未内定者に現時点での志望業界を尋ね (全 40 業界)、先月調査の同データ、および、全モニターを対象に選考解禁前の 3月に尋ねたデータと比較した。

3月時点で圧倒的に高かった「銀行」は、5月には2位に下がり、6月には10位へと大きく順位を下げている。これは多くの銀行で採用のピークを越え、内定を得られる可能性が狭まったためと考えられる。他に、早期に採用活動を終了した企業の多い「運輸・倉庫」なども順位を下げている。逆に業界の裾野が広く、業界全体での採用規模が大きい「情報処理・ソフトウェア」は、徐々に順位を上げている。5月・6月調査とも「官公庁・団体」が1位なのは、元から公務員志望の学生に加え、民間企業に内定が出ず公務員に切り替えた学生も少なくないからだと思われる。県職員などの地方公務員 (大卒程度・上級) の1次試験は、今年は6月30日というところが多い。

活動の中心としている企業について推移を見ると、5月時点よりも「中堅中小」「規模にこだわらない」との回答がさらに増え、中堅中小へのシフトが進んだ様子が表れている。前頁の「規模の見直し」が3割程度にとどまっていたのは、5月にはすでに見直していた学生が相当数いたからだと思われる。

志望業界 (上位 15 業界)			(%)
3月調査 (全モニター)	5月調査 (未内定者)	6月調査 (未内定者)	
1 銀行 27.1	1 官公庁・団体 17.5	1 官公庁・団体 17.3	
2 水産・食品 18.1	2 銀行 16.2	2 情報処理・ソフトウェア 12.5	
3 運輸・倉庫 16.6	3 商社 (専門) 11.5	3 水産・食品 12.1	
4 電子・電機 15.6	4 水産・食品 11.2	4 商社 (専門) 11.8	
5 商社 (総合) 15.2	5 情報・インターネットサービス 11.0	情報・インターネットサービス 11.8	
6 情報・インターネットサービス 14.7	6 情報処理・ソフトウェア 10.8	6 医薬品・医療関連・化粧品 10.6	
7 素材・化学 14.3	7 素材・化学 10.5	7 素材・化学 10.2	
マスコミ 14.3	8 建設・住宅・不動産 9.9	8 マスコミ 9.9	
9 医薬品・医療関連・化粧品 14.0	9 電子・電機 9.6	9 電子・電機 9.5	
10 情報処理・ソフトウェア 13.8	マスコミ 9.6	10 銀行 8.3	
11 商社 (専門) 13.6	11 信用金庫・信用組合 9.2	11 精密機器・医療用機器 8.0	
12 エネルギー 13.5	12 運輸・倉庫 8.9	通信関連 8.0	
13 官公庁・団体 13.4	13 医薬品・医療関連・化粧品 8.6	13 商社 (総合) 7.6	
14 建設・住宅・不動産 12.9	14 自動車・輸送用機器 8.0	建設・住宅・不動産 7.3	
15 保険 11.8	商社 (総合) 6.6	14 運輸・倉庫 7.3	
	15 通信関連 6.6	自動車・輸送用機器 7.3	
	精密機器・医療用機器 6.6		

※40 業界から 5 つまで選択



### 5. 就職決定企業を決めた理由

就職先を決めている学生に、決め手となった理由を選んでもらった。2年前までは、「仕事内容が魅力的」が他の項目を引き離して1位だったが、前年大幅にポイントを下げ、今年は2位に転じた。同様に、2年前は2位だった「職場の雰囲気が良い」も、この2年で10ポイント以上、ポイントを下げている。一方で、「大手企業である」「有名企業である」といった項目がポイントを上げている。今年1位になった「社会貢献度が高い」を象徴として、学生の企業選びの観点は、大手志向の様相を呈していると考えられ、リーマン・ショック直後それとは大きな変化を見せている。

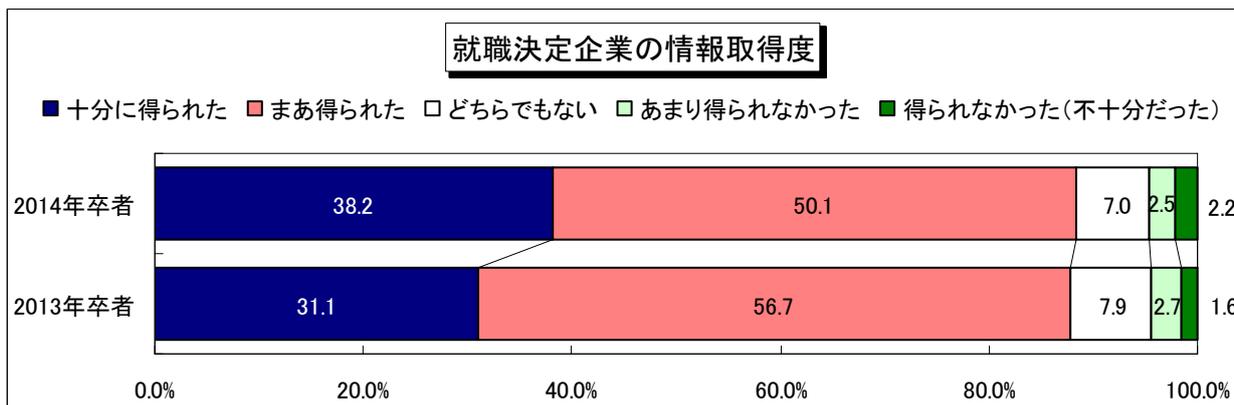
就職決定企業を決めた理由

		(%)			
		2014年度	2013年度	2012年度	2年間のポイント差
1	社会貢献度が高い	33.9	28.9	32.5	1.4
2	仕事内容が魅力的	30.7	31.4	42.3	▲ 11.5
3	将来性がある	25.6	25.8	16.4	9.2
4	大手企業である	25.3	22.5	16.1	9.2
5	有名企業である	25.1	24.3	16.4	8.7
6	職場の雰囲気が良い	24.6	28.7	35.6	▲ 11.0
7	福利厚生が充実している	23.1	19.2	23.7	▲ 0.6
8	業界順位が高い	20.4	21.4	17.7	2.8
9	給与・待遇が良い	19.7	21.6	19.6	0.1
	世の中に影響力が大きい	19.7	19.6	16.1	3.6
11	希望の勤務地で働ける	18.4	18.6	19.6	▲ 1.1
12	希望の職種に就ける	14.2	11.7	16.4	▲ 2.2
	業績・財務状況が良い	14.2	10.6	7.9	6.3
14	製品・サービスの質が高い	12.9	7.5	10.1	2.9
15	企業理念に共感できる	12.0	11.3	15.1	▲ 3.1

※全31項目の中から5つまで選択  
※上位15位を抜粋

### 6. 就職決定企業の情報取得度

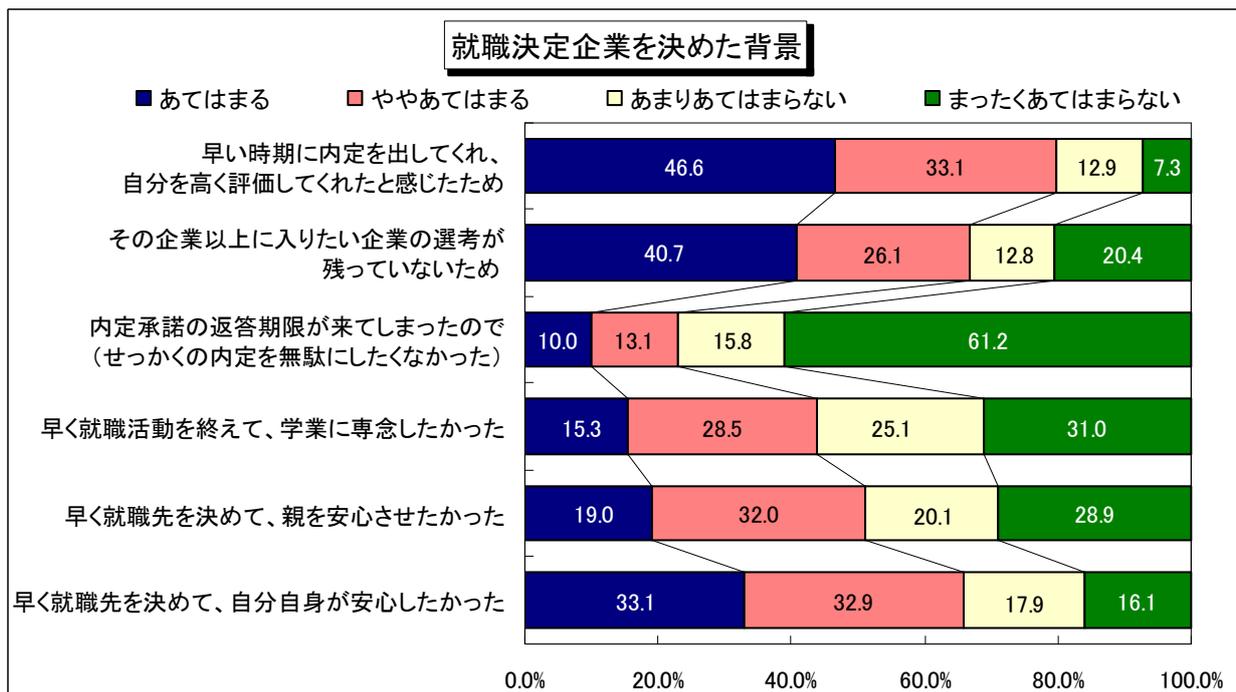
就職先企業について、就職活動を通してしっかり情報を得られたかどうかを尋ねた。「十分に得られた」が38.2%と前年より7.1ポイント増えた。「まあ得られた」の50.1%を含め、9割近くが「得られた」と回答している。前年の就職採用戦線における大きな問題は「学生の理解不足」であったが、今年は改善が進んだようだ。学生の理解を促すよう、企業側の努力が効を奏したという側面が見て取れる。



### 7. 就職決定企業を決めた背景

就職先を決めた背景を見てみると、「早い時期の内定で、自分を高く評価してくれたと感じた」に「あてはまる」と回答した人が半数近く、46.6%にのぼっている。早く内定を出すことが、企業にとって優位に働いている、ともとれる。「その企業以上に入りたい企業の選考が残っていないため」も、「あてはまる」という学生が多い。「内定承諾の返答期限が来てしまったので」という理由は少数派だった。企業側が期限を定めても、就職先を決める要因としての効果はあまりなさそうだ。

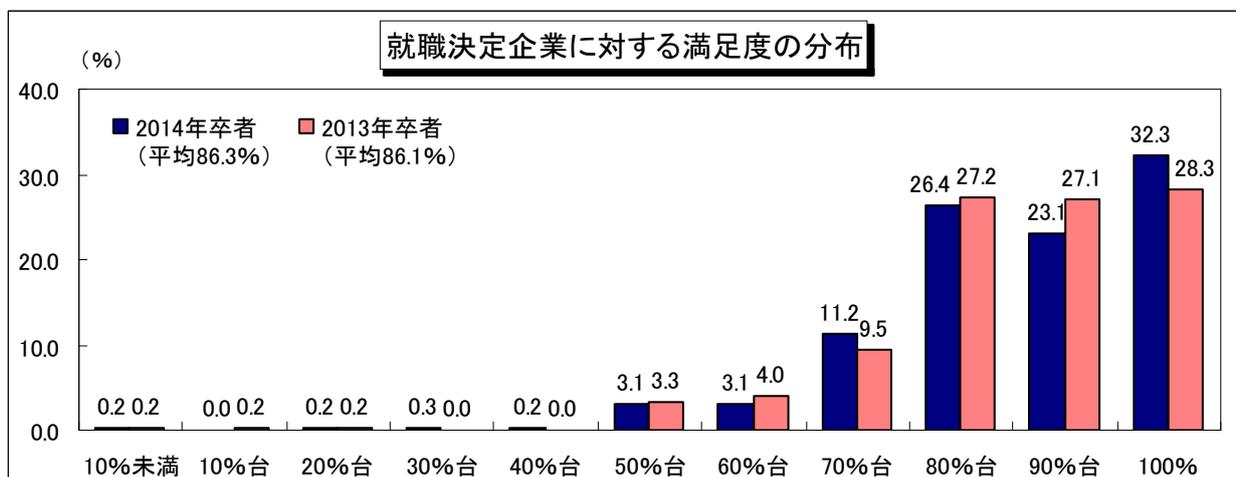
また、就職決定企業への満足度を尋ねたところ、全体平均で前年調査（86.1%）とほぼ同率の86.3%であった。「100%」と回答した人の割合は、前年の28.3%から32.3%へと増えている。



**就職決定企業に対する満足度**

(%)

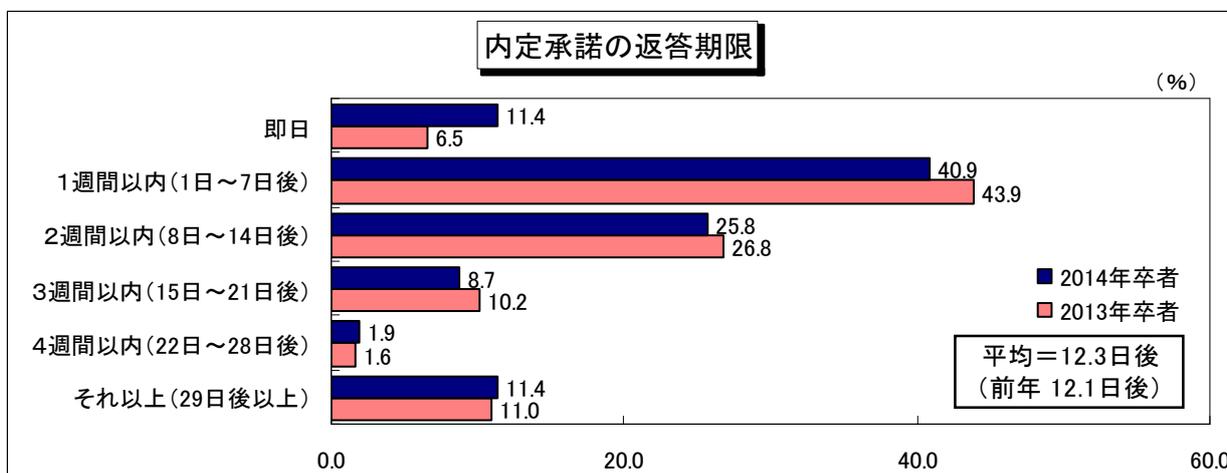
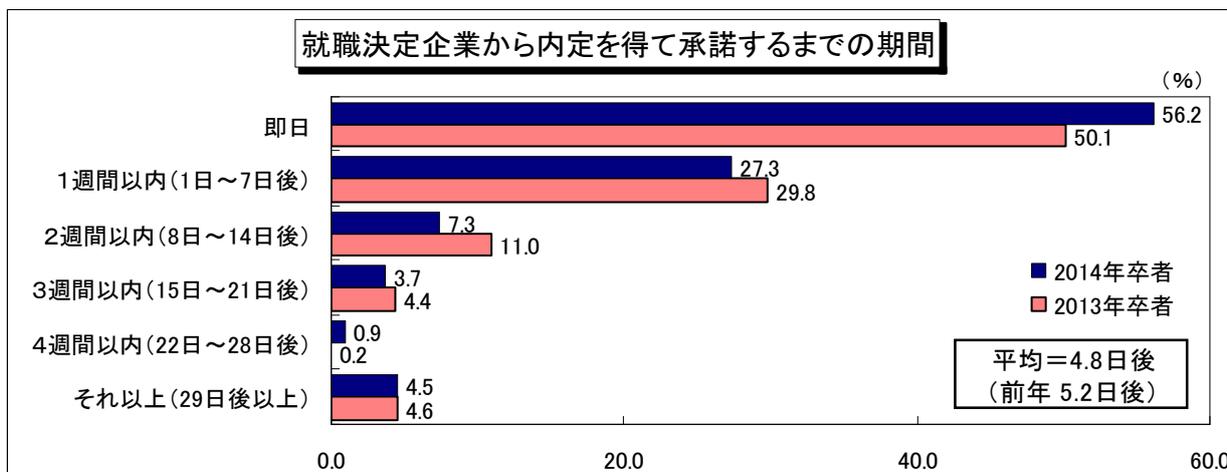
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
満足度／平均	86.3	86.1	85.8	86.2	86.3	87.6



### 8. 就職決定企業への内定承諾期間

就職先を決定し活動が終了している学生に、その企業に内定を得てから承諾をするまでに要した期間(日数)を尋ね、前年と比較した。「即日」が56.2%と半数を超えているが、内定先に十分満足している学生の多くがその場で快諾したのだと思われる。実際、就職先への満足度は平均86.3%と非常に高い(7頁参照)。平均すると4.8日後には承諾の返事をしている。

就職決定企業から内定承諾の「返答期限の提示があった」という学生は41.2%と4割強。提示があった場合の期限は、内定告知から「1週間以内」がボリュームゾーンだが、1カ月以上という企業も約1割存在している。期間を単純に平均すると12.3日後となる。実際の学生の承諾と随分差があるが、それだけ期限を待たずに早めに返事をする学生が多いということだろう。



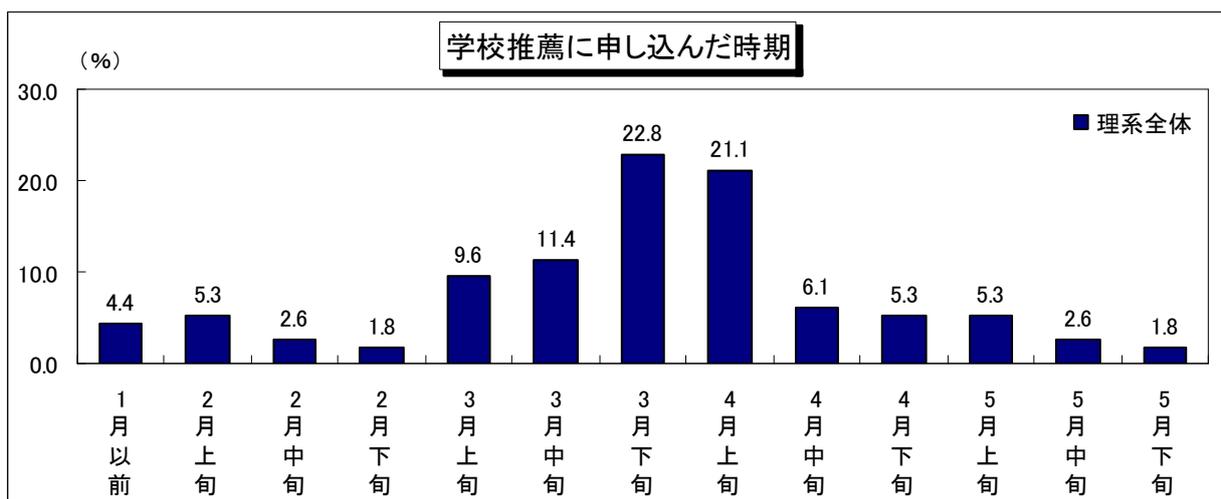
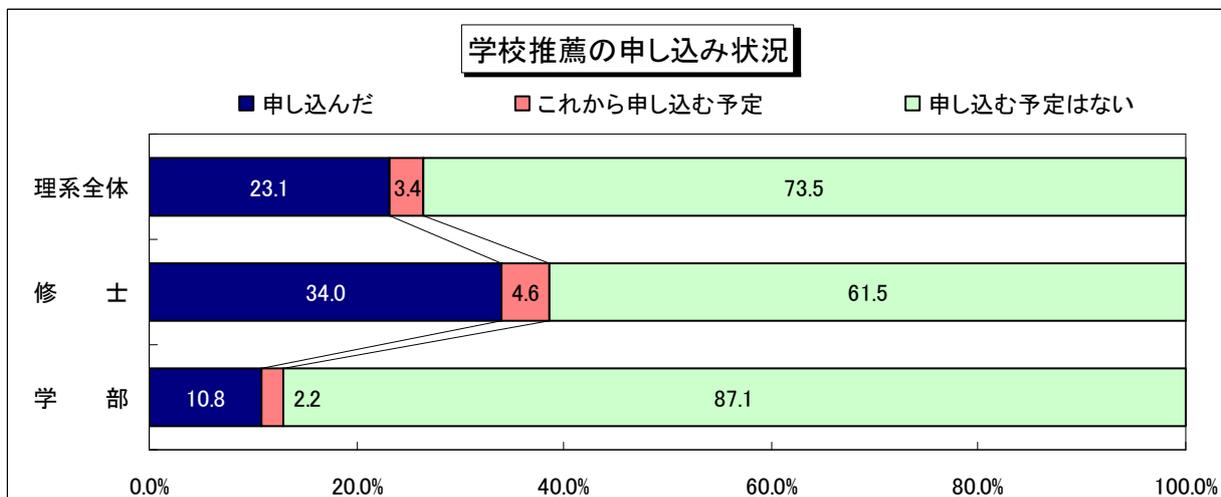
- 2つの企業の最終が控えていたので、「それらの企業の選考を辞退して下さるのであれば、この場で内々定をお出しします」と言われ、それを承諾し内々定をいただきました。 <文系女子>
- 最終選考終了後、後付け学校推薦の取得をするようにとの電話があった。他社の辞退を翌日まで、推薦の取得は3日後までに詳細を連絡とのこと、2つの連絡が終わった時点で内々定との指示でした。 <理系男子>
- 最終面接の翌々日に意思確認、他社辞退を告げた時点で内々定告知。 <文系男子>
- 本当に第一志望かどうかは確認された。役員との面談でその場で握手。 <文系男子>
- 他社選考を辞退するか確認後「おめでとう」と握手を交わし、その場で内定者懇親会への招待状をいただいた。 <文系女子>

### 9. 理系学生の推薦申し込み状況

理系学生に、学校推薦への申し込み状況を尋ねた。「申し込んだ」との回答は全体の 23.1%。修士学生に限っても 34.0%と 3 人に 1 人の割合に過ぎず、学部生では 10.8%と 1 割程度にとどまっている。学生モニターは就職活動に積極的であることを差し引いても、推薦制度の利用度合は決して高くはなく、自由応募が主流と言える。

学校推薦に申し込んだ時期は、「3 月下旬」22.8%、「4 月上旬」21.1%に集中しており、この時期が 4 割以上を占めている。

推薦申込者に学内選抜の有無を聞いたところ、「学内選抜があった」は約 3 割 (30.7%) だった。企業からすれば、大学でしっかり選抜した人材を推薦して欲しいところだろう。推薦による合格率が下がっているのは、学内選抜があまり行われていないことも要因の一つではないだろうか。企業の多くは自由応募の学生のほうが質は高い、と評価しているようだ。



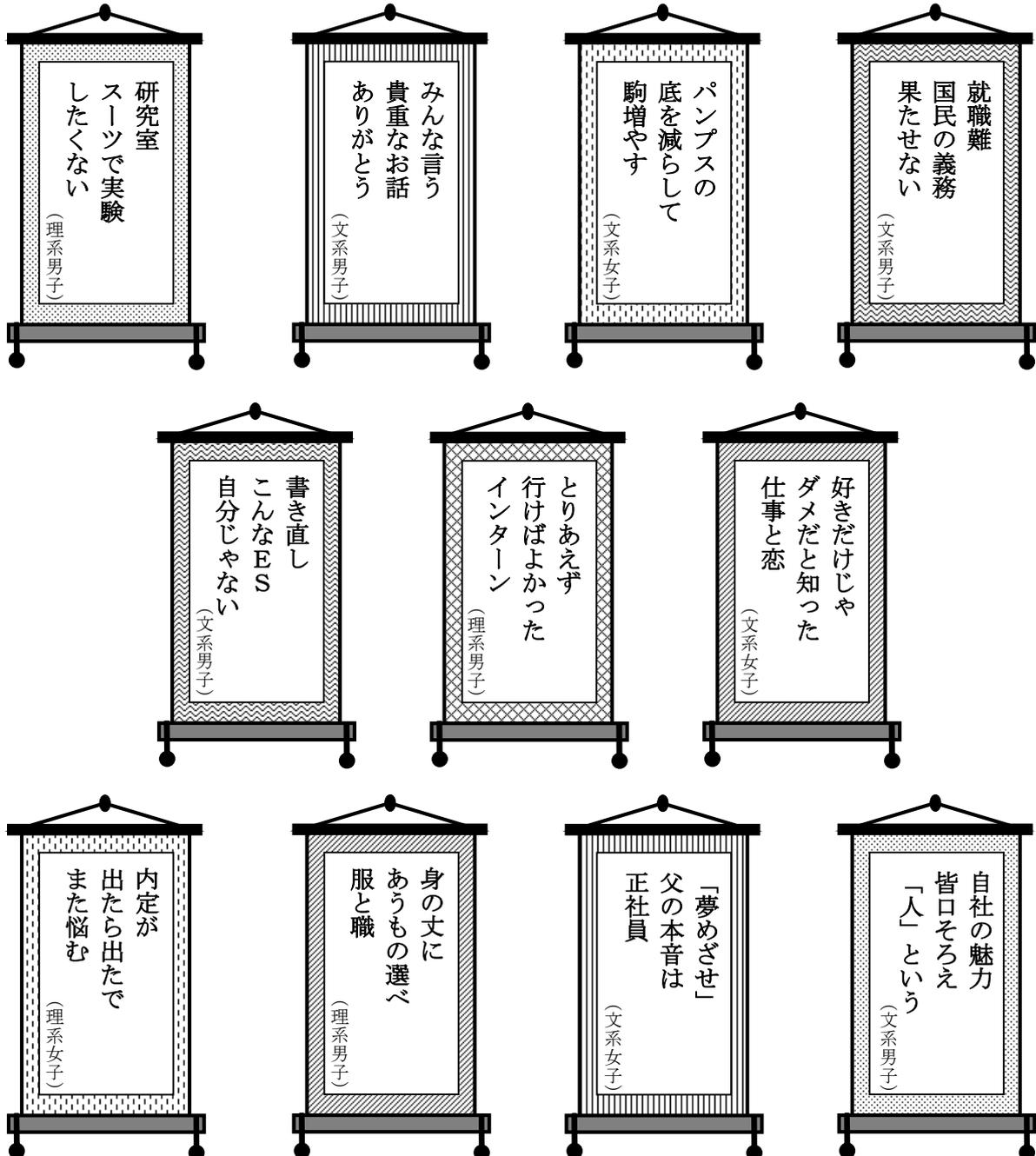
#### 学内選抜の有無

	理系全体 (%)	修士 (%)	学部 (%)
学内選抜があった	30.7	29.2	36.0
学内選抜はなかった	69.3	70.8	64.0

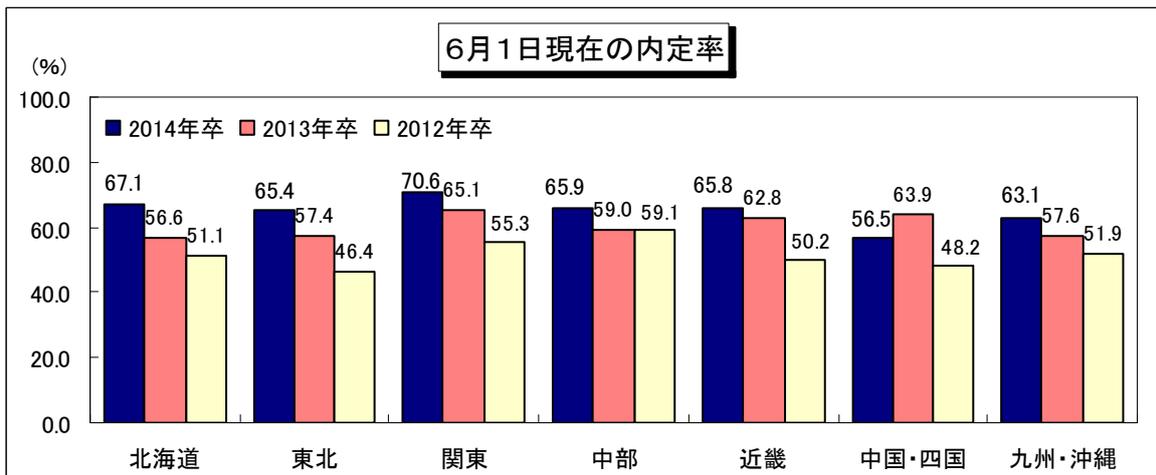
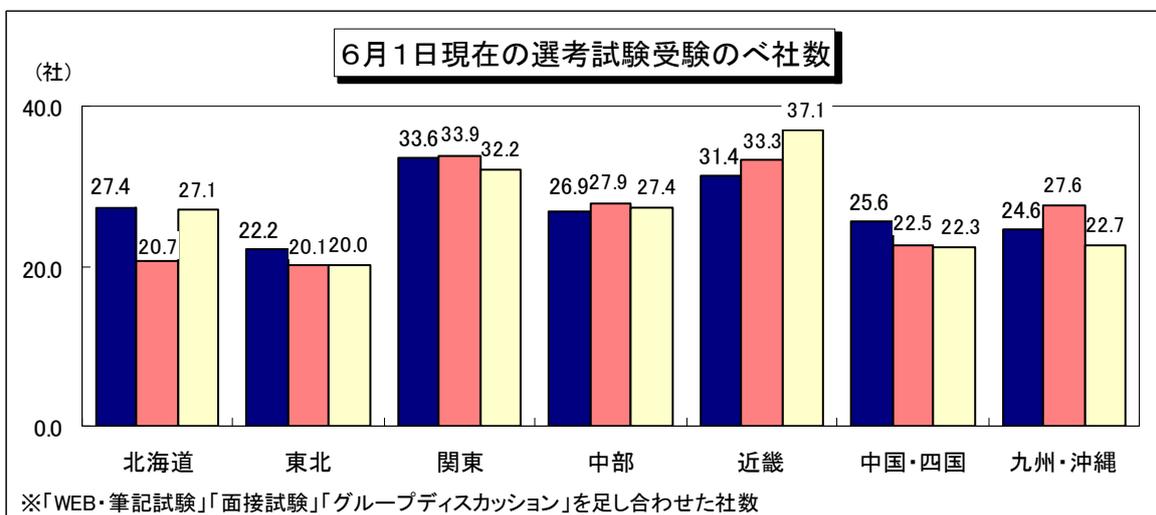
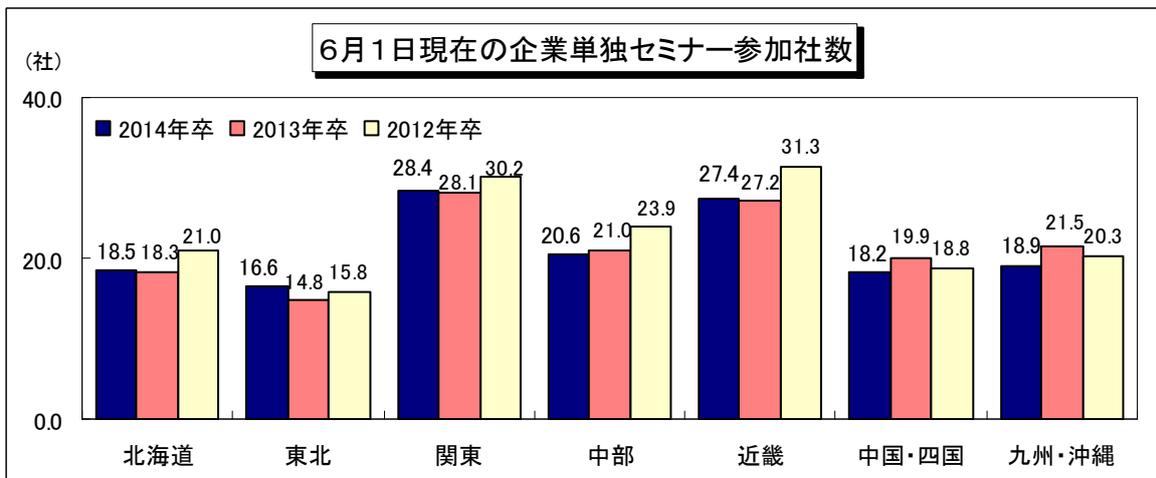
## 10. 就活川柳

就職活動で感じたことを、思いつくまま川柳に詠んでもらった。全 686 作品が寄せられた中から、ユーモアや風刺の効いた一例を紹介したい。

初めての経験に戸惑いつつも、懸命に就職戦線に臨む学生の等身大の姿が、川柳の向こうに透けて見える。



《参考データ》 大学地域別集計



【回答数】

(人)

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
2014年卒	73	78	528	167	269	69	103
2013年卒	53	68	498	166	226	83	92
2012年卒	47	56	447	149	211	83	79